# Ono city
## fire department

小野市長
蓬莱　務

**自らの身を守る「自助」**
**地域住民や企業が連携する「共助」**
**隣近所同士が互いに助け合う「近助」**

小野市消防本部は、昭和４０年４月１日に発足し、以来５０年、激動の時代といわれた昭和から平成へと時代をたどるなかにあって、市民の皆様をはじめ、関係各位の叡智とたゆまぬご努力、そして深い郷土愛に支えられ発展してまいりました。

小野市消防本部が、このように発展してまいりましたのも、市民の皆様はもとより、関係各位のご指導ご支援の賜物であり、さらには、今日の小野市消防本部の礎を築いてこられた先人の方々のご尽力の賜物であります。この機会に改めまして、衷心より敬意を表し、感謝申し上げる次第であります。

さて、小野市では、「行政も経営」と捉え、より高度でより高品質なサービスをいかに低コストで提供するかを追求し、「顧客満足度志向」、「成果主義」、「オンリーワン」、「後手から先手管理」という「行政経営４つの柱」を基軸に行政運営を進めており、平成２６年には「小野市防災センター」の運用を開始し、「後手から先手管理」による災害への対応を行っているところであります。

しかしながら、近年の気候等の変化により、先の茨城県常総市での鬼怒川の堤防が決壊し甚大な被害が発生したことや南海・東南海トラフ巨大地震、山崎断層帯を震源とする地震など、いつ、どこで災害が発生してもおかしくない状況であります。

小野市消防本部では、今後益々高まる消防への期待に対応し、市民の生命、身体及び財産を守るため、消防力、防災体制のさらなる充実・強化に努めておりますものの、災害時の「公助」には限界があります。

被害を最小限に抑えるためには、自らの身を守る「自助」、地域住民や企業が連携する「共助」に加えて、隣近所同士が互いに助け合う「近助」が益々求められてくるものと考えております。

「悲観的に準備し、楽観的に対応する」ことを基本として、市民の皆様との協働による消防力、防災体制の充実・強化を図り、誰もが安全・安心に暮らせる災害に強い小野市の実現に向け、全力を傾注してまいる所存でありますので、市民の皆様をはじめ、ご尽力いただいております関係各位に、ご理解とご協力をお願い申し上げ、５０周年誌発刊にあたっての挨拶といたします。

蓬莱 務

greeting

# 発足５０周年を祝して

小野市議会議長
**前田　光教**

小野市消防本部が発足から記念すべき５０周年の節目を迎えられましたこと、市議会を代表して心からお祝い申し上げます。

また、このたび発足以来、今日までの記録をまとめられました記念誌を発行されますことは、誠に意義深いことであり、編集にご尽力を賜りました皆様に心から敬意を表する次第でございます。

さて、近年の災害の態様は、都市化の進展や生活様式の多様化に伴い、複雑・大規模化する傾向にあり、予測しがたい災害が増加しているのが現状であります。

平成７年に兵庫県南部地域に甚大な被害をもたらした阪神淡路大震災や、平成２３年に発生し、想定を超えた震度と大津波により東北地方を中心に、多くの尊い命と財産が奪われた東日本大震災などの教訓を活かし、本市域においても、その発生が危惧される山崎断層帯での地震や東南海地震、また台風や局地的な豪雨などによる災害に、日頃から備えておく必要があります。

現在、小野市の消防行政は、１本部１署１分署、消防職員６５名で、日々発生する各種災害に対応できる質の高い常備消防を推進し、その任務である「国民の生命、身体及び財産を火災から保護するとともに、水火災又は地震等の災害を防除し、及びこれらの災害による被害を軽減する」ため、５万市民の安心・安全の確保に努めていただいております。

今後とも、多様化・高度化する消防需要に適切かつ迅速に対処していただくため、基礎的訓練はもとより、高度技術の習得に、なお一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

市議会といたしましても、市民の皆様の生命と財産を守り、安全で安心に暮らせるまちづくりを推進するという観点から、さらに小野市の消防力が充実されるよう努めてまいる所存でございます。

結びにあたり、小野市消防本部のさらなるご発展と消防職員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げまして、小野市消防本部５０周年誌発刊のお祝いのご挨拶とさせていただきます。



greeting

# 発刊のことば

小野市消防長
**長谷川　勝也**

小野市消防本部発足５０周年を迎えるにあたり、ここに小野消防の歴史を記す「小野消防の軌跡」を発刊できますことは、消防関係諸賢の絶大なご支援とご協力、また市民の皆様の深いご理解の賜物と厚くお礼を申し上げますとともに、今日の安全安心な小野市が顕在することは先人の郷土愛と奮励の賜物と礼意を表し、心より深く感謝を申し上げます。

さて、当市消防本部の始まりは、昭和４０年４月１日に遡ります。

歴史を振り返ってみますと、「昭和」から「平成」の新しい時代を迎え、都市基盤の整備と環境変化とともに消防体制も大きく変革を遂げました。

都市整備で変貌を魅せた市南部の消防力強化のため、平成４年に消防署南分署を開設し、一昨年には消防・防災業務の縦割り行政をなくすため、防災センターと消防指令センターを設立、災害対策における行政対応の一本化を図りました。非常備消防においても消防団組織のスリム化や女性消防団の発足など、時代の変化に応じた装備の充実、市民ニーズに対応できる消防力の強化が図られてまいりました。その結果、小野消防の歴史を振り返る年に過去最少火災件数を達成できたことは誠に喜ばしいことであります。一方、救急件数は少子高齢化時代を現すかの如く年々増加し続け、今後もさらに救急需要は増大するものと危惧しております。

この高まりをみせる救急需要への即応を含め、近未来に発生が予想される巨大地震による被害の軽減、多様化する災害被害を想定内のものにするために、時代ニーズに応じた消防・防災力を増強するとともに、官民一体となった備えと住民同士の互助精神を普及し、市民防災力の強化と幼少期からの防災教育に注力してまいります。

先人より守り抜かれた愛郷心を今なお引き継ぎながら、我々現職の責務である未来の安全安心な小野市を次世代に繋げるために、行政と消防本部、消防団が一致協力し、百折不撓の所存でございますので、関係各位のより一層のご支援とご鞭撻を切望いたしまして、発刊の挨拶といたします。

greeting

# 50周年を記念して

小野市消防団長
**飛田　佳孝**

小野市消防本部発足５０周年の節目にあたり、消防関係の諸先輩方におかれましては、郷土愛精神のもと、地域の安全確保のため、日夜献身的にご尽力を頂いたことに対し深く心より敬意と感謝を申し上げます。また、今後とも消防防災に多大なるご理解ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、昭和２９年１２月に小野市が誕生した当時の消防団は、旧町村単位の６地区消防団で小野市連合消防団組織でありましたが、その後、昭和３５年４月に小野市消防団として統合され、時代の変化と共に、消防設備の充実、機能強化が確立されてきました。

現在、我ら消防団は男性６８４名、女性１６名の合計７００名で、地域に密着した消防団活動を行っておりますが、将来何をすべきかと見つめ直しますと、地球温暖化に伴う集中豪雨や巨大台風など、過去に経験したことのない災害にどう対応するかが問われるとともに、近い将来、発生が予測されている南海トラフ巨大地震では、郷土を守ることはもちろん、被災地支援や被災者の受け入れなど、消防人としてどう対応していくのかが問われることでしょう。

そのような災害に対応するためには、地域に根差し、市民と連携した活動を展開することはもちろん、警察、自衛隊など他の機関との連携をより深め、広い視野を持った活動を行わなくてはなりません。

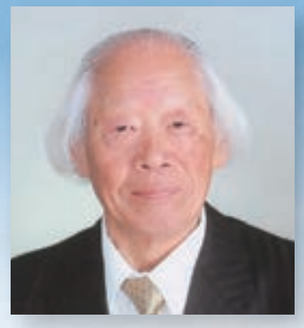
また、時代は超少子高齢化社会へ突入し、消防団員の平均年齢も上昇していることから、消防団全体の若返り、また、団員の育成強化などの課題もあるなか、我々は「絶えず進化し続ける消防団」をモットーに、将来に向け、時代に合った組織として変革しつづける必要があると考えます。

今後も、災害から小野市を守り抜く強い決意を持ち続けるとともに、消防体制のより充実強化を進める覚悟でありますので、皆様方には、今後ともより一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げ、お祝いの言葉といたします。



greeting

# ５０周年を祝して



小野市消友会長
**掘井　算満**

小野市消防本部発足から５０年という半世紀を迎え、消防の発展と歴史を記す「小野消防の軌跡」を発刊されるにあたりまして、市長をはじめ防災関係者各位のご尽力、市民の皆様のご理解とご協力の賜物と、深く感謝を申し上げますとともに、心からお祝い申し上げます。

この機に小野消防の歴史を回顧し、今後の展望に決意を新たにすることは、消防人として誠に意義深いことと考えています。

戦後、目まぐるしい経済発展を遂げた昭和の時代から近代化の進んだ平成への移り変わりとともに、消防を取り巻く環境は大きく変化し、それと同時に当市の消防・防災体制も先人から引き継がれた英知と情熱とともに成長を遂げてまいりました。

防災業務が一本化された防災センターの設立、消防・防災設備・装備の充実、消防組織の変革などハード面とソフト面の消防力強化充実が図られ、近年の火災件数の減少や自然災害被害に対する早期対応など、現職消防・防災人の「市民の安全安心を守るという決意」が目に見える成果としての現れであり、消防人ＯＢを代表して感謝申し上げます。

しかしながら、東日本大震災や長野県御嶽山の噴火などの自然災害、世界で横行しているテロなどの人的災害が後を絶たないことも事実で、未曾有の災害被害を軽減し、想定内のものにするために、さらに防災基盤の充実と消防防災体制の強化を図っていただき、「未来の小野市の安全安心な市民の暮らしを守る」という信念をもとに「災害に強い小野市」を築くため、先人からの郷土愛の継承と一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げ、お祝いのご挨拶といたします。

greeting

# 小野消防５０周年に寄せて

小野市防火協会長
**伊藤　俊博**

小野市消防本部発足５０周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

ひとくちに５０年とはいいますが、昭和４０年の発足以来、消防職員並びに消防団員の皆様には昼夜を問わず、小野市民の生命・財産を守るため、火災、風水害などの各種災害対応に対し、心から感謝と敬意を表します。

さて、この５０年を顧みますと、１９９５年1月１７日に発生した阪神淡路大震災、２０１１年3月１１日に発生した東日本大震災では、多くの尊い命を奪い、忘れることができない未曽有の大災害でありました。

震災時は、市民、企業、行政の全ての人々が助け合い連携協力し、街の復興を目指す人々の力には大変驚かされるものがありました。

現在では、震災の経験を教訓に、各地域で防災訓練等が盛んに実施されるまでに市民の防災意識は向上してきており、ますます行政及び企業に対する市民の期待は高まってきています。

当協会におきましても、複雑多様に変化する社会情勢に対応すべく、企業における防災意識の向上と自衛消防訓練の実施など企業防災力の強化を推進し、市民、企業、行政が一体となった「安全安心なまちづくり」のため、小野市消防本部を側面から支援していきたいと考えております。

終わりに小野市民の期待に応えるべく、この５０年を礎として更なる安全安心なまちづくりのために邁進されますことを切に望み、消防職員、消防団員の皆様方のご健勝と、ますますのご活躍を祈念申し上げましてお祝いのことばとさせていただきます。

# 目　　次

## 小野消防の軌跡

ー消防本部発足50周年記念ー


あいさつ・ご祝辞 …… 1

小野市長　蓬莱　務

小野市議会議長　前田　光教

小野市消防長　長谷川勝也

小野市消防団長　飛田　佳孝

小野市消友会長　掘井　算満

小野市防火協会長　伊藤　俊博

1　軌　跡 …… 9

2　保　革 …… 29

3　闘　史 …… 55

4　躍　進 …… 63

5　詳　録 …… 77